

東海学園女短大 西条 セツ
辻 啓子
○丸山 幸江

1. 針による布の損傷は縫製上の外見を悪くし、縫合効率の関係においても損傷が増大すると効率は低下すると云われている。前報では普通ミシンとスラントニードルミシンの針角度の相違、針の太さによって損傷が異なるという結果を得たので、今回は従来の普通ミシンと $\angle 9^\circ$ の前方傾斜を有するスラントニードルミシンの縫製時における織糸の針目損傷と縫目強度及び縫合効率の関係について比較検討した。

2. (1)試料布は市販の平織2種、綾織2種を用い、縫糸はリフト仕上げカタン糸50'S/3, 針は#11, #14の2種を用いた。縫製時の針目数は18針/3cmである。(2)針目損傷は30cm×3cmの試料布を2枚重ねとし、縫製後24hr後に縫糸を除去し、100針当りの損傷数を測定した。(3)縫目強度は縫糸を切断除去し、試長5cm, 試巾3cmの試験片をショッパー型引張試験機で引張強度を測定し、縫目効率を算出した。(4)、縫合効率は縫目強度と同様の大きさの試験片で引張縫合強度を測定し、縫合効率を算出した。

3. 針目損傷と縫目強度の相関関係においては、針による織糸の損傷が増大すると縫目強度が低下するという傾向がCfの値の大きい試料布にみられた。特にスラントニードルミシン、針#14で縫製したサージに縫目強度の低下が著しかった。